



エアサイクルの自然のちからで
人も家もずっと健やかに



人も家もずっと健やかに。 健康住宅「エアサイクルの家」

外張り断熱+壁体内通気工法が特徴の「エアサイクルの家」は、
通気構造を持つオリジナル断熱材で家をすっぽりと包み、
空気を太陽・風・地熱という自然のちからで通気させる仕組み。

壁体内に乾いた空気が循環すれば、構造体は強く保たれ、
アレルゲンになるようなカビやダニ、シロアリの発生が抑制されると言われています。
人も家もずっと健康に過ごせる、そのような環境づくりのお手伝いをしたいと考えています。

さらに、自然のちからを取り入れるパッシブ設計で
エアコンだけに頼らずに『夏涼しく冬暖かく』を。
快適さと省エネまで、次世代につなぐ思いをかたちにする
私達はこんな家づくりを支えてゆきたいのです。

Contents

空気が動いて、家も人も健康に P.03
古来の家づくりをベースに進化してきたエアサイクル工法

エアサイクル独自のオリジナル工法
外張り断熱+壁体内通気工法 P.05
通気+基礎断熱工法 P.06

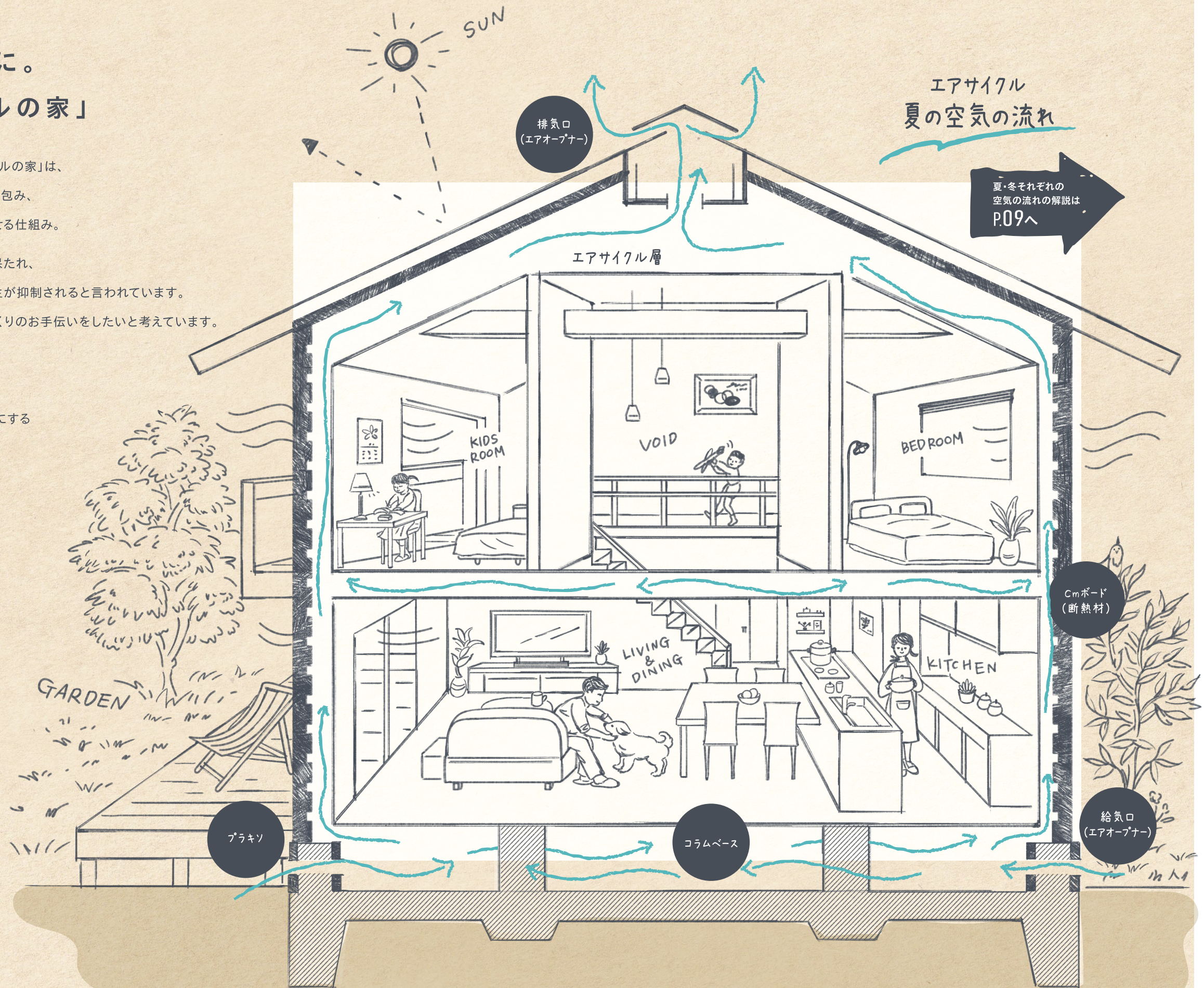
高気密・高断熱住宅との比較データ ... P.07

夏と冬、空気が動く仕組み P.09
夏は「煙突効果」で冬は「温度差」で空気を動かす

エアサイクル専用部材 P.11
全館輻射暖房「AirWith」 P.12

エアサイクルの実績と進化の歴史 P.13
全国で3万棟超を超える実績

全国から届いた暮らしの実感 P.14



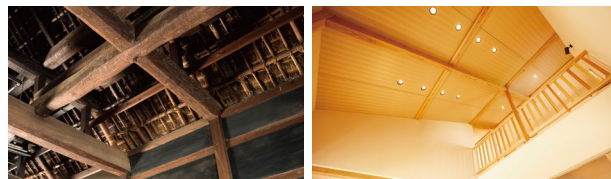
空気が動いて、家も人も健康に

エアサイクル工法は、まだまだ日本で環境エネルギー問題に関心が低かった

1970年代から研究が開始され、1984年に正式に工法が発表されました。

住宅の建材をはじめ、様々な住宅向け製品・産業資材を開発しているフクビ化学工業株式会社が

自然のちからにこだわって進化させた、オリジナルの「壁体内通気工法」です。



自然と調和し
人も家も健やかにする
家づくり。

古来から高温多湿な日本においては、
「家のつくりようは夏をもって旨とすべし」
(夏の暑さはどうしようもないので、家は夏の暑さ対策を基本につくろう)
という吉田兼好の格言にあるように、
自然の特性を巧みに利用した
開放型の夏型住宅が基本でした。
そんな“自然と調和する建築手法”に加え
冬への対策にも目を向け、
まるで夏と冬に衣替えをしているような家を目指し、
完成したのがエアサイクル工法です。





「家を長持ちさせたかったら、木部を“動く空気”に触れさせろ」 一昔の大工の棟梁の言葉ー

法隆寺、正倉院や古民家など、数百年にわたって日本に残る木造建造物は、必ず木部を湿気から守るため、動く空気に触れさせています。そのように、雨や湿気対策をしっかりと行うことが日本においては重要でした。「エアサイクルの家」はその考え方を継承し、壁内を密閉せず通気させることで木材を湿気から守り、長寿命の家づくりを実現します。



法隆寺



正倉院

日本最古の木造建築物として1300年以上もの歴史を誇る法隆寺と、同じく1300年以上宝物類を収蔵してきた正倉院

古来の家づくりをベースに進化してきたエアサイクル工法

日本古来の家づくりの特徴



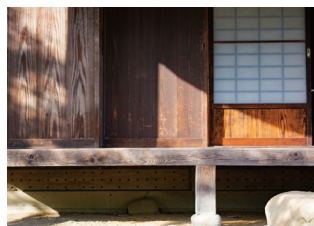
大きな気積と 煙突効果の大屋根

屋根空間の容積(気積)を大きく取ることで、暑さや湿気を和らげ、煙突効果の利用で、囲炉裏の煙や熱を棟の煙出しからスムーズに排出します。



直射日光と雨水を遮る 深い軒と庇

深い軒や庇は、夏は直射日光を遮り暑さをやわらげ、冬は陽射しを室内の奥まで取り込みます。また、雨水が室内に吹き込むのを防いでくれます。



通気性の良い 開放的な床下空間

湿気を逃がし、木材を健全な状態に保てる工夫がされていた開放的な床下空間。反面、冬は底冷えするという大きなデメリットもありました。



熱を遮り、風を通す スダレとヨシズ

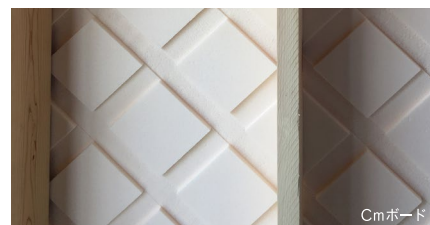
光や熱を遮りやわらげる調光装置、外からの視線を遮る目隠しの役割を持つ天然のブラインド。隙間からは心地の良い風を室内に送り込みます。

エアサイクル工法の特徴

自然エネルギーの活用

進化した日本古来の建築手法

パッシブな設計



屋根・壁に通気層を持つ オリジナル断熱材

屋根と桁、壁の中に、通気層を持つオリジナル断熱材を使用し、室内を包む壁体内の空気を自然のちからを使って動かし、結露の発生リスクを低減します。



「通気」+「断熱」で進化した 床下空間システム

風通しのいい床下空間に「断熱」を加え、年間を通して安定した温度を保つ「地熱」という自然のちからも活用し、床下空間をより安定した温熱環境にします。



オープナーの開閉で 夏と冬の衣替え

季節の変わり目に衣替えのような感覚で排気口を開閉。そのように季節の特性にあわせることで、あまりエアコンばかりに頼らない快適な環境を実現します。



※エアサイクル工法を採用すれば結露やカビ、シロアリ、腐朽菌の発生がなくなることをお約束するものではありません。立地条件などで異なりますので、事前に建築業者様と十分にご検討ください

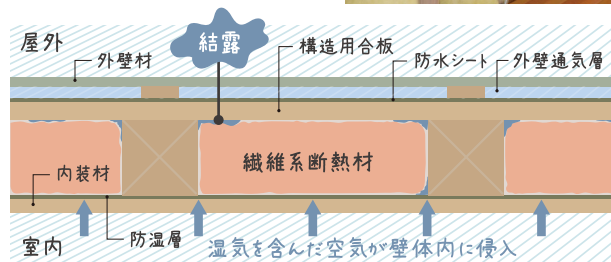
エアサイクル独自のオリジナル工法 外張り断熱＋壁体内通気工法

目指したのは「快適な温度・湿度を保つ空気の間」で家をすっぽりと包み込むこと。
自然のちからで空気を動かし、木も人も快適な健やかな環境をつくる壁体内通気工法です。

壁の中を空気が動くことで快適な環境へ。内部結露を低減

充填断熱工法

躯体(壁)の中に断熱材を充填する
木造住宅の一般的な断熱工法
壁の中を隙間なく塞ぎ密閉。しかし
防湿層が不十分だと結露する場合も。



壁体内の結露を低減することで ダニ、カビなどの発生リスクを低減※

住宅の気密化が進むにつれ、床下や壁体内など見えない場所で発生するカビ、カビを餌として繁殖するダニがアレルギー性疾患やシックハウス症候群を発症するとして問題になっています。エアサイクルの壁体内通気工法で壁の中や床下の空気を動かすことで湿気の滞留を抑制し、カビの発生を抑えます。

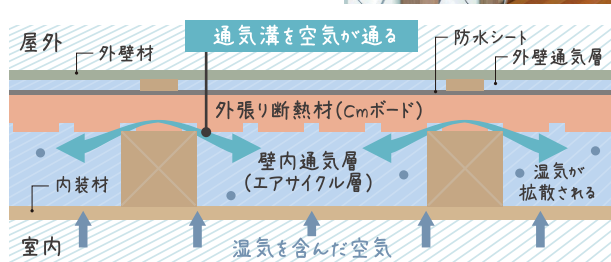


▲「壁体内結露」は壁内や床下、天井などで発生する結露のこと。カビ・ダニが繁殖しアレルギーを発症する最大の原因です。

※「健康な日常生活をおくるために：シックハウス症候群の予防と対策」(厚生労働省) (<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/O000124201.html>) の情報を元に作成

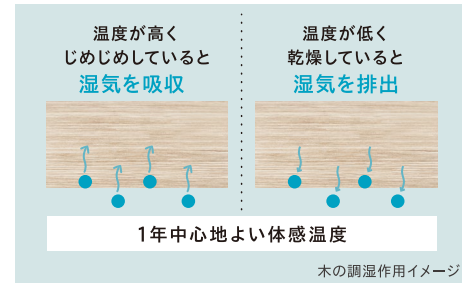
エアサイクル工法

独自の外張り断熱材を使用し
躯体(壁)に通気させる工法
動力源は自然の持つ性質。
空気が動き、結露を防ぎます。



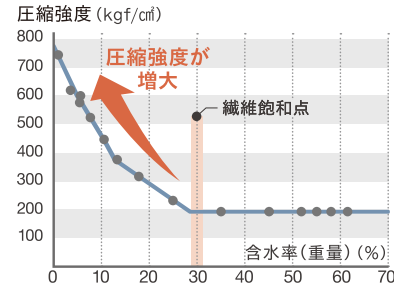
壁の中の空気を動かすことで 木材の調湿効果を促す

木材には、湿度が高くなると湿気を吸収し、乾燥してくると湿気を排出する「調湿効果」という性質があります。多湿すぎる環境では吸収した湿気を排出できず、やがて木材自体が腐食してしまい調湿効果は失われてしまいます。エアサイクル工法では、常に木材を動く空気に触れさせて、調湿作用を促します。



調湿作用による効果で 木材の強度を長く保つ

木材の強度は、含水率(木材中に含まれる水分量)が繊維飽和点(約30%)以下になると低いほど増します。これは、細胞の収縮により凝集力が高くなるためと考えられています。エアサイクルの家では、構造材の木材含水率は10%台で安定しています。



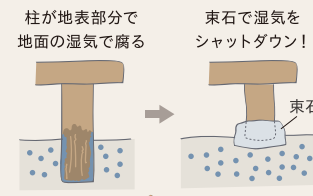
エアサイクル独自のオリジナル工法 通気＋基礎断熱工法

目指したのは「湿気がこもらず開放的、でもしっかりと断熱も行える」床下空間をつくること。
独自に研究・開発を続け、進化を遂げてきた基礎工法です。

家中をひとつにつなげる通気効果と、断熱効果を高めた基礎。家の基礎から快適さを確保

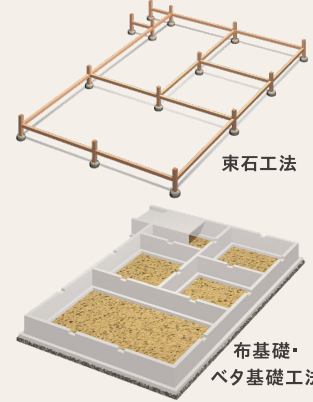
基礎の歴史

「堀立て式」から「束石工法」へ
土中に柱を立てるだけの「堀立て式」は、直接地面に埋め込まれた柱が地表部分で腐り劣化してしまいました。平安時代に柱と地盤を束石で縁切りする「束石工法」が生まれて以降、高床式で風通しのよいこの工法が広く普及しました。



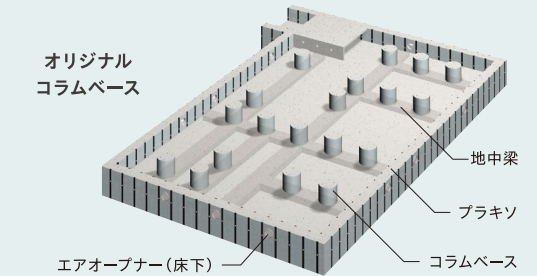
そして「布基礎・ベタ基礎工法」へ

関東大震災で多くの住宅が倒壊し、束石工法の耐震性が問題になり、当時普及し始めたコンクリートを基礎に使った「布基礎工法」や「ベタ基礎工法」が主流に。しかし通風性が悪くなり床下で結露が起こりやすいという課題があります。

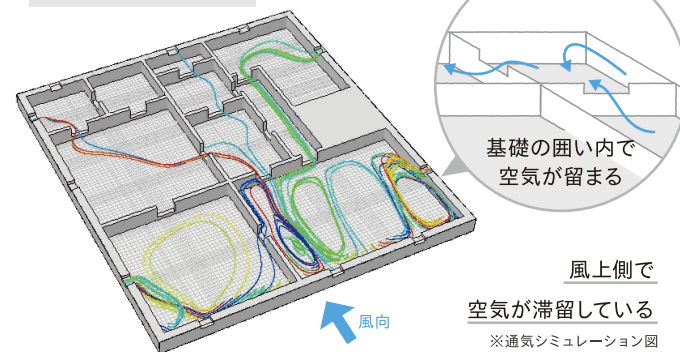


エアサイクル独自の床下空間システム コラムベース＋ブラキシ

コラムベースシステムは、エアサイクルオリジナルの基礎工法です。地震に強いベタ基礎工法をベースに束石工法のメリットを取り入れた画期的な工法で、通気効果で腐朽菌や白蟻の発生を抑え、家全体の耐久性を向上させます。

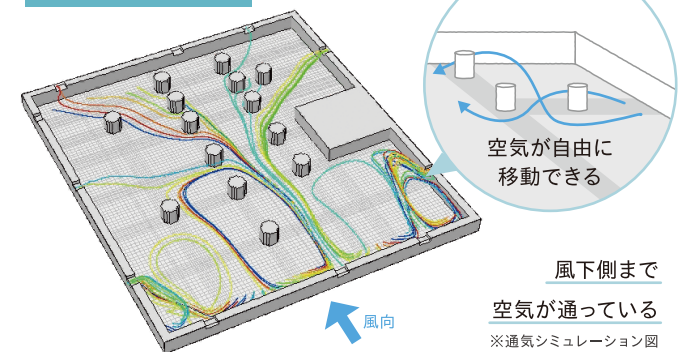


一般的な布基礎



風上側で
空気が滞留している
※通気シミュレーション図

コラムベース基礎



風下側まで
空気が通っている
※通気シミュレーション図

コラムベース基礎は、布基礎の約1.5倍※の通風量が得られます。

※シミュレーションから得られる数値であり効果を保証するものではありません。

エアサイクルの家「20年後の壁の中」大調査！大工さんもびっくりの、カビなし、腐食なしのキレイな構造材



※これらは過去に建築された建物で確認された事実の記録であり、全ての建物で同様の効果が期待できるものではありません。また、写真のエアサイクル工法は、当時の部材、工法となり現在と異なります。

エアサイクルの床下空間は温度変化がほとんどない

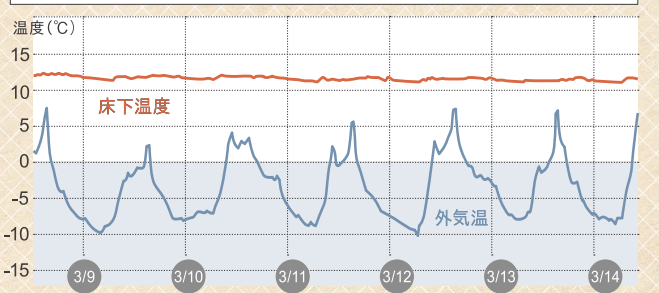
安定した床下温度環境を保つ仕組み

「コラムベース」の通気効果と
地熱エネルギーの利用 × 内外二重の基礎断熱
「ブラキシ」の断熱効果

地盤中の温度は一年を通じて安定しており、その土地の年間の平均気温にほぼ近いといわれています。エアサイクル工法では、基礎コンクリートの放熱・蓄熱する性質を利用し、蓄えた太陽熱や地熱の一部をゆっくりと放熱して、床下空間の温度を、夏は暑すぎず、冬は寒すぎない範囲に保ちます。



【実測データ】 物件概要: 建築地: 長野県諏訪郡富士見町(II地域)
測定日: 2001年3月



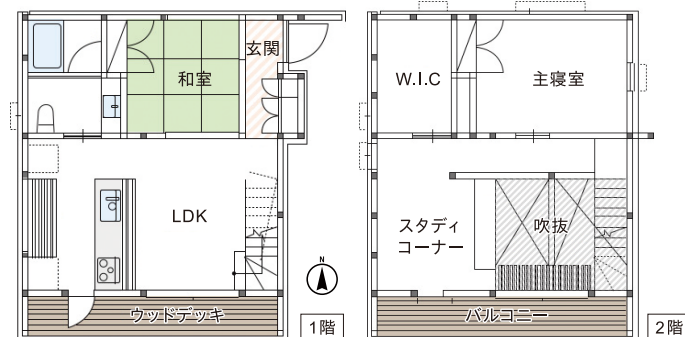
高気密・高断熱住宅との比較データ

エアサイクル住宅(写真手前)と高気密・高断熱の住宅(写真奥)。
日々様々なデータを測定し、エアサイクル工法の効果を比較検証しています。



		エアサイクル住宅	高気密・高断熱の一般住宅
断熱仕様	屋根・天井	シャルーブラック80K 80mm ※屋根断熱:U値0.41[W/mK]	セルローズファイバー300mm ※天井断熱:U値0.13[W/mK]
	壁	Cmボードブラック80K ※外張断熱:U値0.32[W/mK]	高性能グラスウール16K ※充填断熱:U値0.42[W/mK]
	床	—	フクフォームエコ80mm ※大引間充填
	基礎	ブラキソX 50+50mm ※基礎断熱:U値0.32[W/mK]	—
	窓	高性能トリプルガラス樹脂サッシ	トリプルガラス複合サッシ
外皮性能	玄関ドア	ヒノキ無垢材複合ドア	金属製高断熱構造
	外皮平均熱貫流率UA値	0.42 [W/mK]	0.47 [W/mK]
	平均日射取得率γAC値	1.5 [W/mK]	1.4 [W/mK]
	熱損失量q値	97.3 [W/K]	97.9 [W/K]
	等級4	90,008 [MJ/年]	86,268 [MJ/年]
	等級5	82,754 [MJ/年]	79,387 [MJ/年]
	設計1次エネルギー消費量	47,198 [MJ/年]	49,794 [MJ/年]

エアサイクル住宅、一般的な工法でつくった高気密・高断熱住宅ともに、所在地の福井県の「HEAT20 G1グレード」の基準値(UA値※0.56)を上回る性能の建物です
※UA値とは「家の外に逃げる熱量を外皮等の面積全体で平均した値」で低いほど高性能になります。



実験棟の間取り、仕様や内部の様子はエアサイクル住宅・一般住宅ともに共通

1階面積 38.30㎡
2階面積 37.68㎡
延べ面積 75.98㎡



中西ヒロツグ氏による
“実験棟リノベーションプロジェクト”
「家づくりブログ」にて公開中! 詳しくはこちら



高断熱・高気密の一步先へ 時代のニーズに応える家づくり

現在、日本を含む全世界の国が、地球全体の取り組みとして、家づくりの過程や暮らしの中で、できるだけ温暖化の主要因CO₂(二酸化炭素)を出さないように対策するという「地球温暖化防止計画」を実践しています。省エネルギーや節電、太陽光発電、また、再生エネルギー・自然エネルギーの活用が推奨されている中、省エネ機器に頼らず、大掛かりな電気の動力も使わずに“自然のちから”の活用で快適に暮らせるエアサイクル工法は、まさにいま、時代に求められている工法なのです。

冷暖房機器の使用を抑え、CO₂の排出を抑制

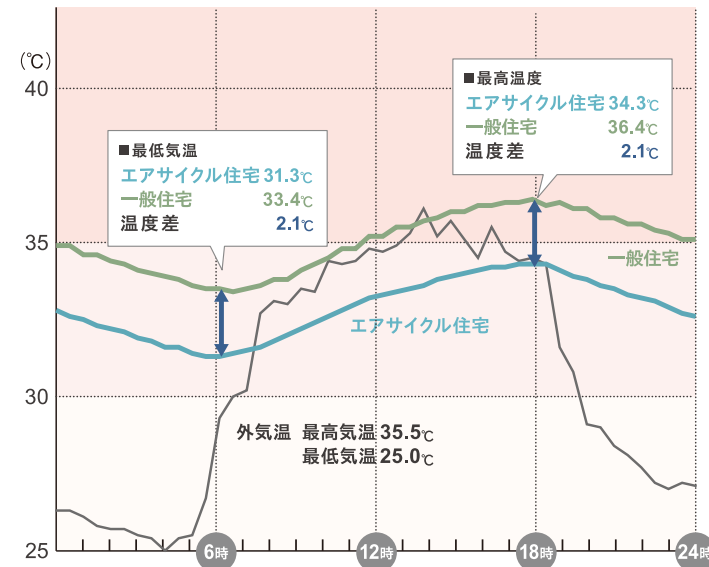


自然のちからを活用し快適な温熱環境

オリジナル通気工法でつくった自然素材を長持ちさせる家

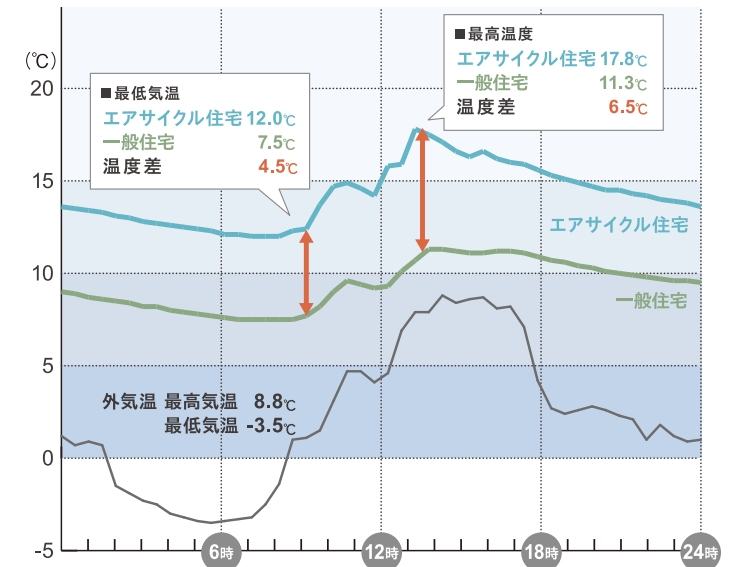
実測! 夏と冬の温度比較※

夏 測定日: 2018年7月23日(晴れ)
測定条件: 冷房運転なし・窓は全て閉じた状態
小屋裏・床下のオープナーは全て開いた状態



夏場、エアサイクル住宅では日射が強い日でも一日を通して室温は低く、高気密・高断熱の一般住宅を平均で **2.1℃** も下回りました。

冬 測定日: 2017年2月25日(晴れ)
測定条件: 暖房運転なし・窓は全て閉じた状態
小屋裏・床下のオープナーは全て閉じた状態



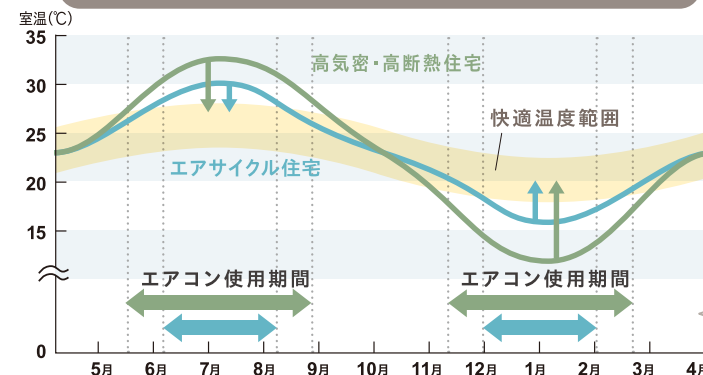
冬場、エアサイクル住宅では日照がある日は室温は高く、高気密・高断熱の一般住宅を最高室温では **6.5℃** も上回りました。

※上記は当社実験住宅の測定データによるもので、実際の性能・効果を保証するものではありません。また、実験のため、実際に人が居住した状態での測定ではありません。

温度比較結果

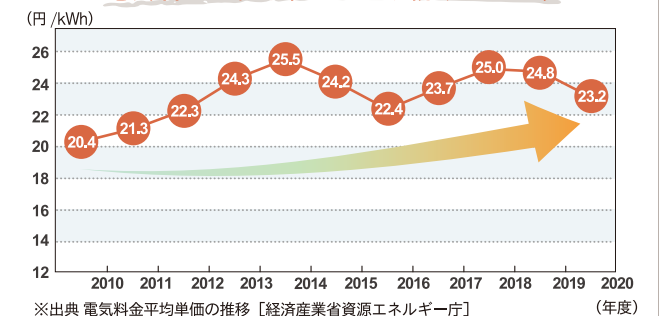
エアサイクル住宅と高気密・高断熱の一般住宅は、ほぼ同等のUA値でも夏の気温差は平均**2.1℃**、冬の室温差は**4.5℃以上**を計測

エアコン使用期間比較(実測値をもとにしたイメージ)



※エアコン使用時間イメージ(実験棟での実測データを基にしています)
矢印は室温を快適温度範囲に保つための必要な電力量をイメージしています。

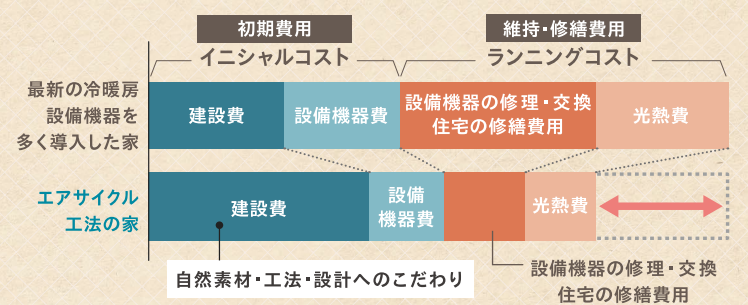
電気料金は少しずつ上がり続けています



2016年4月の電力自由化により一時期は電気料金が抑えられたものの、その後、原油価格の値上げによって、**今後さらに上がる**予想がされています。

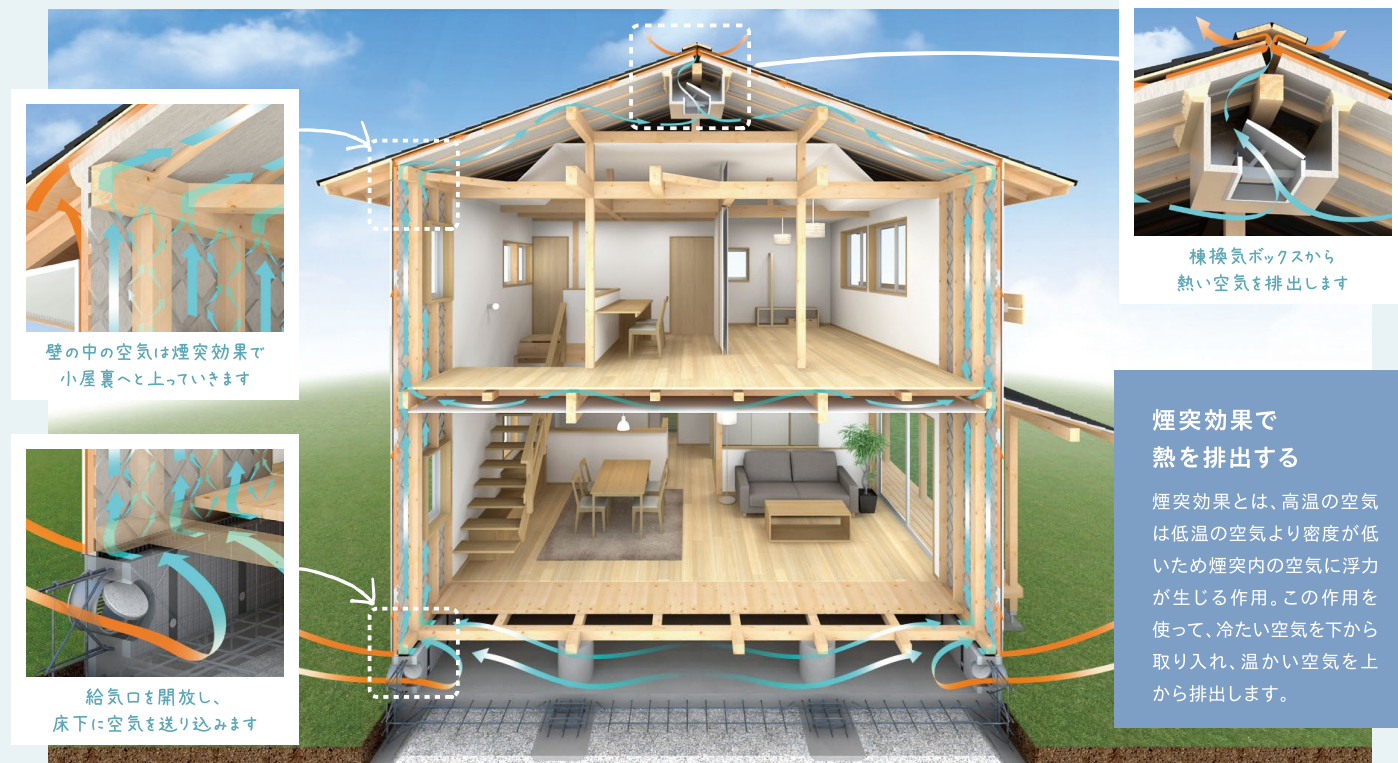
家づくりの総額はランニングコストまで計算しましょう

家づくりでは、額の大きな初期費用にばかり気を取られがちですが、家は建ててから長く暮らすもの。毎月の光熱費や、いずれかかってくる修繕費まで考えることがとても大切です。
自然素材にこだわり、自然のちからを活用し二酸化炭素を排出する消費エネルギーを減らせる、長持ちする家をつくりませんか。



夏、空気が動く仕組み

夏は自然のちからで上昇気流を起こし、壁の中の熱い空気を外へ。



家の中の熱気を排出し、自然な涼しさを体感

夏は床下給気口から壁体内に空気を取り入れ、煙突効果で起きる上昇気流で小屋裏排気口から排熱を促進します。

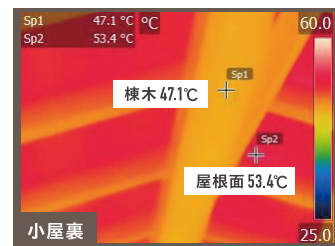
家の中で最も温度が低いとされる床下空間へ給気し、その床下の涼気を壁から小屋裏へつなげることで、内部空間の温度上昇を抑えます。昼、直射日光の影響で熱くなった空気は小屋裏の一番高いところから出ていき、小屋裏の温度を外気温とほぼ同じ程度に保ちます。夜になって外気温が下がると、温められた室内側の空気は内外の温度差によって排気され、夜の冷気と入れ替わっていきます。

エアサイクル夏の調湿効果

気温が下がると相対湿度が高くなり、床下などでは「夏型結露」が起こりやすくなりますが、温度変化がゆるやかであるため、この「夏型結露」の低減に寄与します。

高気密・高断熱の一般住宅

高気密・高断熱工法の夏期の実測値では、小屋裏の温度は上昇し、やがては外気温を超え、直射日光の影響を受けやすい屋根面では53.4℃と、まるでサウナのような状態になっていました。(2022年8月11日撮影)



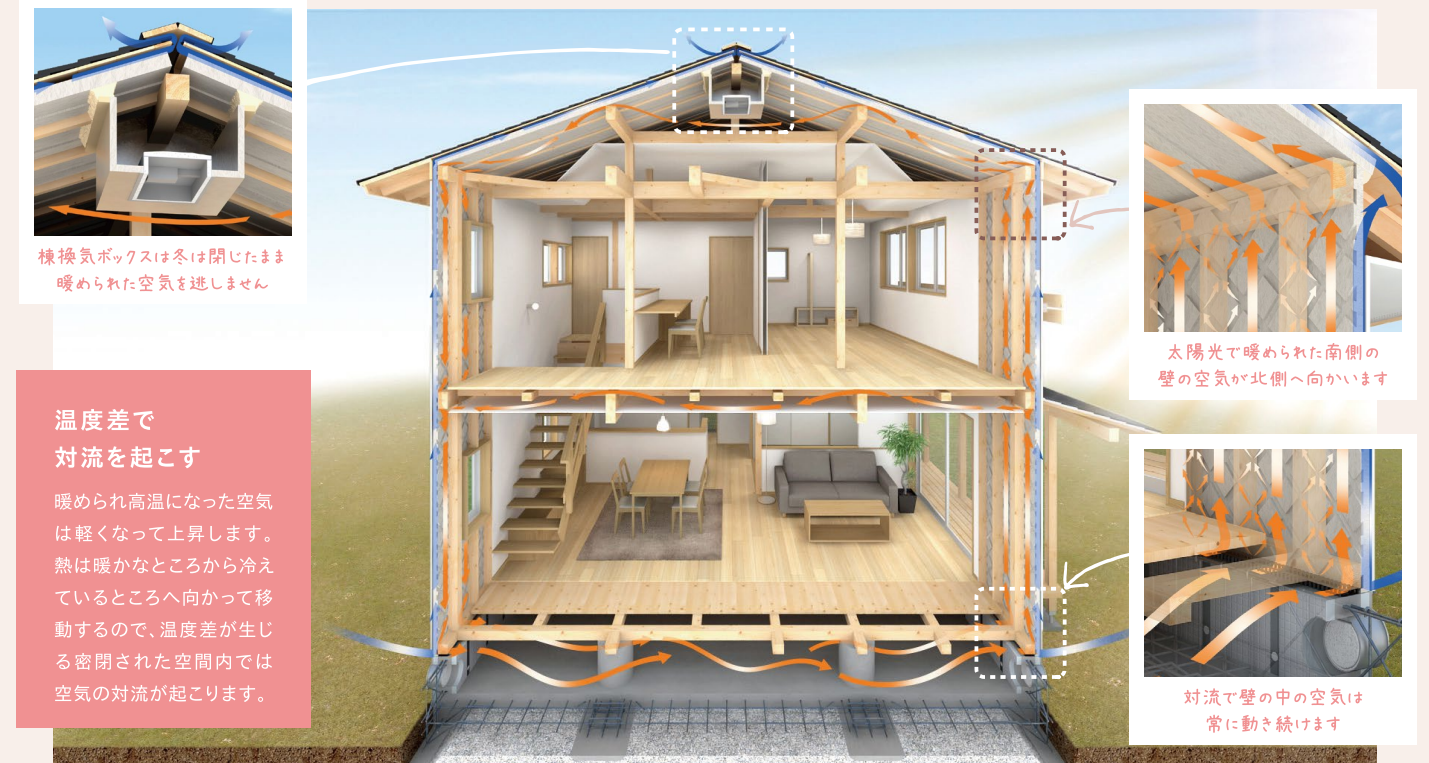
エアサイクル住宅

エアサイクル工法の夏期の実測値では、最高気温を記録した時間帯でも小屋裏は30℃以下を保ち、一番直射日光の影響を受ける天井面でも外気温(34.1℃)とほぼ同じ値で推移していました。(2022年8月11日撮影)



冬、空気が動く仕組み

冬は自然のちからで空気を動かし、壁の中の温まった空気を逃さない。



温度差の少ない、快適な温もりに包まれる

冬は小屋裏排気口と床下給気口を閉じて冷気の侵入を防ぎ、壁体内の温められた空気を逃さず、対流させます。

昼は南側からの日射熱と室内の生活熱で建物全体を暖め、陽が当たらない部位との温度差で空気の対流を起こし、暖気を非日射面へと移動し、建物全体を暖めながら蓄熱していきます。陽が落ちた後、昼間に蓄えた熱や床下の地熱が放熱され、室内の温度が急激に低下するのを防ぎ、冷えが緩和されます。日射の少ない日には暖房機器などから発せられる熱や地熱がエネルギー源になります。

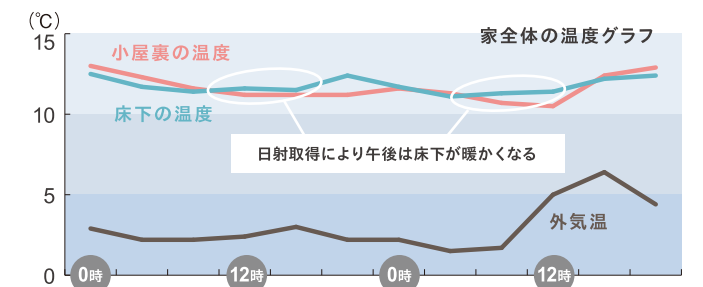
エアサイクル冬の調湿効果

気温が低下すると相対湿度は高くなりますが、温度変化がゆるやかであれば、木材の調湿作用が十分に働き、結露現象は起きにくくなると言われています。

日射取得による床下への蓄熱と放熱の仕組み

午後になると…
小屋裏の温度が床下よりも暖かいためエアサイクル層での空気の上昇は少なく、床下の空気は蓄熱方向に向かうため少しずつ床下の温度が上昇していく

夜になると…
暖まった床下の空気がエアサイクル層を通して気温の低くなった小屋裏へと上昇し同時に家全体を暖める

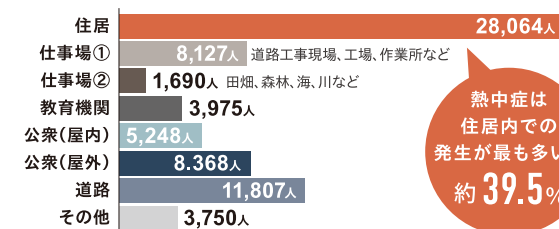


グラフは福井県福井市N様邸の温度測定による(測定日:2021年2月21日~22日)

自然のちからで夏の家族の健康を守る

意外なことに熱中症は家の中で発生するケースも多いのです。室温や湿度の上昇などの要因で起こるほか、夜間に冷房を使用しないことで屋外の気温が下がっても室温が上がってしまい、寝ている間に熱中症になる場合も。冷房中でも、足もとが冷えても頭のあたりは暑いといった室内温度差や、断熱の弱い箇所では熱だまりができるなど、住まいに問題があることも多いようです。

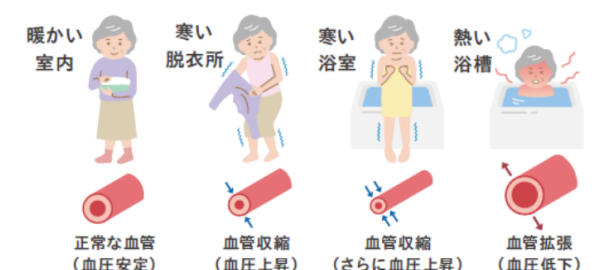
全国の熱中症による救急搬送状況 ※



※総務省消防庁「令和4年(5月から9月)の熱中症による救急搬送状況」より作成

自然のちからで冬の家族の健康を守る

冬の住まいの悩みは、暖房を入れた部屋と入れていない部屋の温度差。それを解消するために、エアサイクルの家は「空気が対流する性質」を利用して、壁の中の空気を動かし、家全体を温度差の少ない空気層で包み込みます。その効果で家全体の温度差も少なくなるため、寒い日でも家中どこにいても快適で、ヒートショックと呼ばれる温度差のリスクを低減し、ご家族の健康を守ります。





遮熱・排熱効果も併せ持つ通気層を設けた断熱材

エアサイクル工法の小屋裏断熱構造は、屋根断熱と桁断熱の2種類を準備しております。
東北地方など寒冷地においては、屋根断熱構造のみです。



シャルーフ

通気層とパネルを一体化することで施工期間も短縮できるように工夫された断熱材。アルミ箔を利用した輻射熱反射効果で夏の太陽熱を遮熱します。(材質:押出法ポリスチレンフォーム)



フェノバード/EZルーフ

経年変化による断熱性能の低下を抑えた高性能の屋根断熱材。EZルーフは両面アルミ箔付きで、室内側の熱反射効果も確保します。(材質:[フェノバード]フェノールフォーム、[EZルーフ]硬質ウレタンフォーム)



フェノバ桁パネル/桁パネル

桁と桁の間に入れる、断熱材と合板が一体となったパネルです。桁の高さで断熱を行うことで高い気密性を確保します。(材質:[フェノバ桁パネル]フェノールフォーム、[桁パネル]ビーズ法ポリスチレンフォーム)

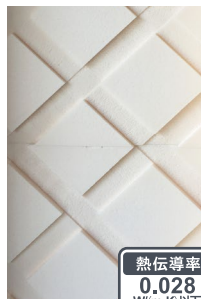
空気の通気を設けた壁の断熱材

エアサイクル工法の原点。断熱材の表面に刻んだ溝を空気が通り、壁の中の空気を循環させます。
独特のダイヤ形の溝の形は、いまでも日々研究を重ねながら進化し続けており、現行のボードは3代目にあたります。



Cmボード

グラスウールやロックウールなどの繊維系断熱材に比べると水や湿気に強く、断熱性能も高い発泡プラスチック系の断熱材。年月を経て形が崩れることもないので、隙間などが出来る心配もありません。(材質:押出法ポリスチレンフォーム)



熱伝導率
0.028
W/m・K以下



Cmボードブラック

2018年、ZEH(ゼッチ)等高性能住宅にも対応する高性能タイプとして販売が開始されました。カーボンを配合することで軽くて強くなり、通常のCmボードより住宅の断熱性能を高める事が出来ます。(材質:押出法ポリスチレンフォーム)

熱伝導率
0.024
W/m・K以下

開放的な基礎をつくる部材

床下からの冷えを抑える、エアサイクルオリジナルの基礎断熱工法。
日本古来の「風通しのいい床下空間」に「断熱」を加えています。



ブラキソ/ブラキソX

基礎部分における断熱と型枠の機能を併せ持った基礎断熱型枠。一体打ちすることで基礎コンクリートの継ぎ目がなく、基礎の立ち上がり部をしっかりと断熱すると同時に、強い基礎を実現します。



コラムベース

床下空間を分断させず、連続したひとつの空間にする独自の基礎工法であるコラムベースは、通気性の良い床下空間をつくり、それが壁の中の空気層とつながることで、家全体を動く空気層で包み込みます。

エアサイクルの仕組みを支える給気口と排気口

桁パネル部分に設けられた小屋裏排気口を夏は開け、冬は閉め、
躯体内通気の切り替えを行います。開閉は、室内にあるスイッチで簡単操作。



エアオープナー(床下)

周囲の環境に合わせ、風が抜けるよう計算し設置された給気口です。手動で開閉するタイプと、センサーで温度を感じし自動開閉するタイプがあります。



エアオープナー(小屋裏)

電動式により、室内にしながらスイッチひとつで操作が簡単に操作できる排気口です。年2回の開閉のみのため、電気代もほとんどかかりません。



棟換気ボックス

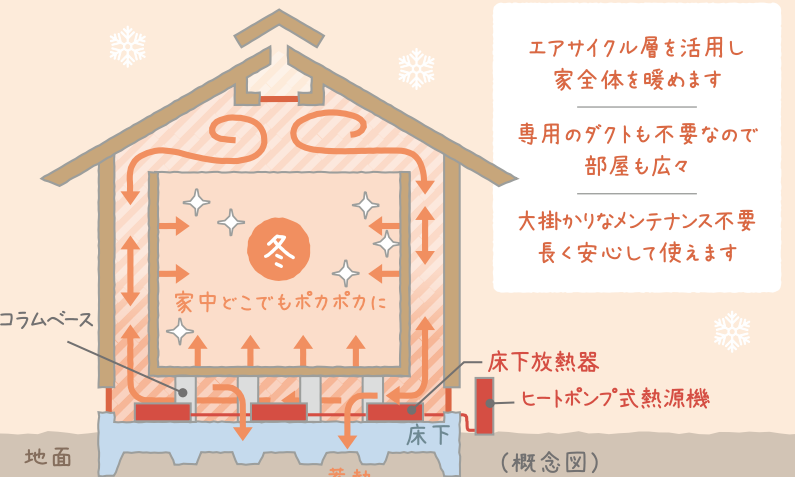
エアオープナー(小屋裏)を取り付けた断熱材BOXです。家の一番高い位置に取り付ける事で、小屋裏の熱い空気を効果的に排熱します。

全館輻射暖房 エア ウィズ Air With

エアサイクルシステムに

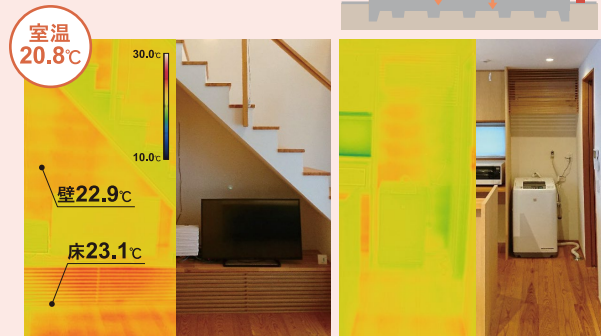
床下放熱器を組み合わせた全館輻射暖房。

床下放熱器に温水を通して放熱させる仕組みで、
やわらくて心地よいぬくもりを体感できます。



エアサイクル+Air With

撮影条件:
床下放熱器4台を
温水温度45℃で稼働。



床と壁の温度が室温以上で足元も暖かい

床下に設置された放熱器の熱が床下や壁の中に伝わっているため、暖かくなっています。床や壁が暖かいということは、外からの冷放射を感じないため、体感としてもポカポカと感ずることができます。

一般工法+エアコン

撮影条件:
ルームエアコンを
1階と2階で20℃設定で稼働。



部屋の中で温度差があり、足元がひんやり

エアコンの吹き出し口の付近では温度が高くなっているものの、少し離れたところでは、床や壁が冷たくなっています。部屋の中の温度も均一ではなく、ムラがある状態です。

1984年から始まり、全国で3万棟を超える実績へ

環境問題が叫ばれるようになる以前から持続可能な家づくりを先取りしてきたエアサイクル工法。
人にも地球にもやさしい家づくりを掲げ、たくさんの実験を繰り返し、進化してきました。



【エアサイクルの家は、国の住宅政策に対応しています】*

長期優良住宅

省エネルギー住宅、長寿命で世代を超えて住み継げる「エアサイクルの家」は、長期にわたって良好な状態を保てるよう講じられた「長期優良住宅」の認定を受けるのに有利な特長を兼ね備えています。一定の条件に適合すると減税、免税の対象になり、住宅ローンを利用する際も控除や金利面で優遇されます。

認定低炭素住宅

二酸化炭素の排出を抑え、エネルギーを浪費しない「エアサイクルの家」は、国が掲げる低炭素社会の実現に向けた「認定低炭素住宅」^{※1}の認定を受けるのに有利な特長も兼ね備えています。認定を受けるには改正省エネ基準のエネルギー消費量のさらに10%以上の削減と、太陽光発電や暖冷房・給湯設備などを含めた総合的な省エネルギー性能で評価されます。
「エアサイクルの家」+「太陽光発電や蓄電」などのご相談もお受けできます。

認定を受けるメリット

所得税減税	所得税の投資型減税
登録免許税・不動産取得税・固定資産税の軽減	
地震保険料の割引 ^{※2}	
ローン金利優遇	・フラット35S金利Aプラン ・フラット50 ^{※3}

※1 認定を受けるには建てる区域が市街化区域等に限定されます
※2・3 長期優良住宅のみ

※2023年5月発行日現在適用されている税制優遇制度に基づいて記載しています。ご利用をご検討いただく際は、事前に条件などをご確認ください。

全国から届いた暮らしの実感



外気温が-15℃でも、室内温度が0℃以下になったことが無い。
梅雨時期は湿度が低く過ごしやすい。
山形県 Y様

気持ちよく過ごすためにエアサイクルは必要で、
十分な価値を提供してくれます。
静岡県 K様

以前の家では、床などバタつくことがあったと思いますが、雨が続いていても家の中はすこしやすく
雨の日に訪れたお客さんに言われるまで湿気の不快感を忘れていました。
静岡県 I様

暖房をつけていなくても冬暖かいと親戚や友人が驚いています。年中とても快適に暮らせていて、
子供が全くカゼをひかなくなりました。
福井県 H様



敷地内の実家に比べ、快適さが違うことを実感。
ロフト空間の開放的な住み心地が良い。
岩手県 A様

我が家はオール電化ですが、実家や近所の友達と比べても
電気が圧倒的に安い。
愛知県 A様

以前のアパートのような、ムツとする空気やジメツとすることがないので快適です。

家で過ごす時間が、一番好きになりました。
愛知県 K様

のどの乾燥が改善され、熟睡できるようになった。
岩手県 Y様

実際に「エアサイクルの家」を建てる仕事に携わっていて
家を建てるなら、エアサイクルにしよう
と思っていた。実際に建てて生活してみて、あらためて「エアサイクルの家」は良い！
自信を持ってお客様におすすめしたい！と思いました。
埼玉県 M様



1年中すごしやすい。
愛知県 Y様

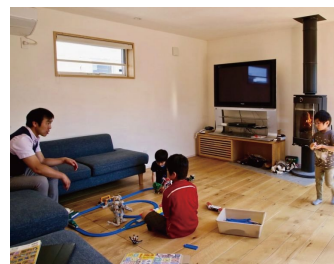


家にいるとき薄着になった。
長崎県 S様

居心地が良く、家にずっといたい
と思うようになった。
愛知県 S様

エアサイクルを選んだきっかけ・工務店さんとの家づくりに寄せられた感想

建築家の方に「薪ストーブ1台で家中が暖くなる家を作りたい」と伝えたらエアサイクルの工務店さんを紹介されました。そして工務店さんに丁寧な説明を受け、夏涼しく冬暖かく、開放感と快適さを両立できるとわかってお願いすることにしました。



岩手県 T様



押しの強いハウスメーカーの接客が苦手でしたが、工務店さんにサリと案内され、気が楽になり、逆に質問責めに。家づくりでは、あつという間に建っていく周りの家とは違い、丁寧なプロセスで建てられる家が誇らしくなりました。



神奈川県 S様

見学したOBさんのお家の吹き抜け空間には包み込まれるような安心感があり、頂いていたパンフレットの「エアサイクル工法」の魅力を実感。細かい要求にに応じていただき、さらに「夏涼しく冬暖かい」が叶い理想的な生活が手に入ったことはすごく幸せだな、と思います。



愛知県 T様

最初はハウスメーカーを検討していましたが現場を見て、工務店の特長とエアサイクル工法に惹かれて心変わり。スタッフの皆さんも総出でサポートに来てくださって...地元の工務店さんならではの安心感や信頼感を実感しました。



宮崎県 S様

ホームページより一部を抜粋しました。ぜひお住まいのお客様の感想をお読みください！

